

[その他]

英国・米国における地域看護教育の現状

米 増 直 美

A Report of Community Health Nursing Education in the U.K and the U.S.

Naomi Yonemasu

はじめに

筆者は、2002年5月から10ヶ月間、英国と米国において、地域看護教育について学ぶ機会を得た。本稿では、英国における専門地域看護師（Community Nurse：CN）の養成の一例として、レディング大学保健福祉学部（University of Reading, Department of Health and Social Care）におけるカリキュラムについて、そして、米国における地域看護学教育の一例として、カリフォルニア大学サンフランシスコ校看護学部（UCSF：University of California, San Francisco, School of Nursing）における地域看護学（Community Health Nursing）の講義と実習について紹介し、今後の、我が国における地域看護学の教育・研究の課題について検討したい。

．英国における専門地域看護師（Community Nurse：CN）の養成について

1．英国における Community Nurse（CN）

英国では、NHS（National Health Service）という保健医療制度により国民に保健医療サービスが提供されている。ほとんどの保健・医療機関は、NHSの下にあり、保健医療機関は国営に準じ、保健医療に従事する者は国家公務員に準ずる。基本的に保健医療サービスは市民へ無料で提供される。近年、NHSが負担する医療費の増加により、その方針をプライマリーケア重視の方向へと転換してきた。プライマリーケアは、Primary Care Trusts（PCT）により提供され、現在、PCTは、NHSの中心にあり、NHS予算の約75%を占める¹⁾。PCTには、GP Surgeryと呼ばれる一般診療所や、地域のヘルスセンター等が含まれ、そこで多くのCNが活躍してい

る。GP（General Practice）とは家庭医のことで、GPもCN同様、PCTに所属している。英国市民は皆、各自のGPを登録し、PCTにおいて、がん検診や予防接種等の予防活動から慢性疾患の治療等の一般診療、そして訪問看護等のサービスを受ける。これらは、我が国に例えて言うならば、診療所と保健所・保健センターが統合した形で、それがすべて国営で各地域に設置され、そこで専門性の高いCNがケアを提供しているのである。

レディング大学においては、7種類のCNを養成している。地区看護師（District Nurse：DN）、ヘルスビジター（Health Visitor：HV）、地域小児看護師（Community Children's Nurse：CCN）、地域発達障害看護師（Community Learning Disability Nurse：CLDN）、地域精神看護師（Community Mental Health Nurse：CMHN）、一般診療看護師（General Practice Nurse：GPN）、学校看護師（School Nurse：SN）、である。これらの7つの専門地域看護は、連合王国看護師助産師ヘルスビジターカウンシル（United Kingdom Central Council for Nursing, Midwifery and Health Visiting：UKCC）により定義されている。専門地域看護師には、産業看護師（Occupational Health Nurse）も含まれるが、レディングから半径50マイルのエリアにおいて、産業看護婦の93%はすでにスペシャリストの資格を持っているため、現在は養成されていない。

各専門地域看護師について、我が国の現状と比較しながら説明する。まず、DNは、我が国で言う訪問看護師で、在宅療養者を家庭訪問しケアを提供する。HVはPublic Healthを担うと定義され、我が国の保健師に最も近い。新生児の家庭訪問や子どもの健診（4歳半まで）

等を行ったり、虐待予防の活動や虐待問題への対応を行ったり、禁煙教育などの健康教育を行ったりする。DN, HV, そして助産師が英国における伝統的な看護職であったが、徐々に専門分化し、さらに以下の職種ができた。CCN は小児専門の訪問看護師である。CCN の活動により、医療処置が必要な子どもの入院期間を短縮し、地域で療養生活を送ることができるようになった。CLDN は直訳すると学習障害看護師であるが、その活動内容から説明すると、学習障害だけでなく、自閉症や知的障害も含めて、発達障害児・者へのケアを、地域で行う看護師である。発達障害児・者の自立にむけての支援や、デイケア等を実施している。CMHN は子どもから高齢者までの心の問題全般を扱う。対象をいくつかのグループ、例えば、高齢者、思春期の子どもの年齢層別のグループ、精神疾患を持つ人や、刑務所にいる人、ドラッグ・アルコール問題を持つ人などのグループに分け、それぞれに対応している。GPN は GP Surgery やヘルスセンターの中で、予防接種や、一般健診・がん検診を行う。さらに、限られた薬については処方ができるので、糖尿病、高血圧等の慢性疾患の治療も行う。SN は児童・生徒の健康管理にあたる看護師である。

これらの CN は様々な PCT に所属している。SN も同様に、各学校に所属するのではなく、地域の PCT に所属し、そこから受け持ちの学校を巡るスタイルを取っている。

2. カリキュラム

入学資格は、既に看護師の基礎教育、すなわち、Registered Nurse (RN) の教育3年間（基礎学習）を受け、既に資格を得ている者に与えられる。RN の基礎教育の中がすでに成人 (Adult)、小児 (Child)、精神

表1. 授業科目群と時間数

| 授業科目群 | | 時間数 |
|-------------------------|--|------|
| Core Units | | |
| 1 | Law and Ethics | 40時間 |
| 2 | Management in Community Nursing | 35時間 |
| 3 | Social, Political and Economic Influences on Health | 40時間 |
| 3 | The Human Lifespan: Development, Adaptation and Change | 40時間 |
| 4 | Professional Development | 40時間 |
| Specialist Option Units | | |
| 6 | Specialist Theory | 95時間 |
| 7 | Specialist Practice (part one) | 9 週 |
| 8 | Specitalist Practice (part two) | 10週 |

表2. 1週間のモデル

| 曜日 | 授業内容 |
|----|--------------------------|
| 月 | Specialist Option Units |
| 火 | Core Units |
| 水 | Core Units |
| 木 | Core Units |
| 金 | Private Study /Tutorials |

(Mental)、発達障害 (Learning Disability : LD) に分かれているため、CCN 取得のためには、基礎教育で Child のコースを、CMHN 取得のためには Mental のコースを、CLDN 取得のためには LD のコースを修了していること、そしてそれぞれの分野で実践経験があることが入学の条件となっている。

英国においては、RN の資格を取得するためにも degree コースや diploma コース、パートタイムのコースなど多彩なコースが用意されているが、CN 養成においても同様である。ここでは、標準の1年間のコースを紹介する。

新学期は10月から始まり、翌年の7月上旬までを3学期に分け、合計40週の中にカリキュラムが組まれている。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 週 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| | | | | | | | | * 1 | * 1 | * 1 | * 1 | | | | | | * 2 | * 2 | * 2 | * 2 |
| 週 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 |
| | * 2 | * 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

□ 学内での学習

■ Specialist Practice Placement (part one)

▨ Specitalist Practice (part two)

▤ 実習場所の選択期間

▥ 休暇12週～14週はクリスマス休暇、26・27週はイースター休暇

* 1 : 週1日は実習

* 2 : 週1日は学内

図1. CNコースの全体構成

表 3. 各専門領域での授業選択科目

| CNLD | CMHN | DN | HV | SN | CCN | GPN | CNの種類 | 授業科目 |
|------|------|----|----|----|-----|-----|---|------|
| | | | | | | | The Context of Community Nursing | * |
| | | | | | | | Theories and Models of Nursing | * |
| | | | | | | | Community Nursing: Culture and Beliefs | * |
| | | | | | | | Community Nursing: Transcultural Issues | * |
| | | | | | | | Carers | * |
| | | | | | | | Care Management | * |
| | | | | | | | Community Collaboration and Development | * |
| | | | | | | | Child Protection | * |
| | | | | | | | Dealing with Violence and Aggression | * |
| | | | | | | | Elder Abuse | * |
| | | | | | | | Interprofessional Working | * |
| | | | | | | | C.P T Panel | * |
| | | | | | | | Nursing Models | |
| | | | | | | | Primary Health Care | |
| | | | | | | | Immunology | |
| | | | | | | | Immunisation | |
| | | | | | | | Communication Skills | |
| | | | | | | | Elderly Assessment | |
| | | | | | | | Managing Services in General Practice | |
| | | | | | | | Health Education | |
| | | | | | | | Theory and Assessment of Wound Healing | |
| | | | | | | | Wound Management / Wound Research / Leg Ulcers | |
| | | | | | | | Legal Issues | |
| | | | | | | | Diabetes | |
| | | | | | | | Accountability | |
| | | | | | | | Nurse Prescribing | |
| | | | | | | | Community Nurses and HIV | |
| | | | | | | | 75-year Assessment | |
| | | | | | | | Nurse Practitioner Outreach | |
| | | | | | | | The Children Act | |
| | | | | | | | PN Depression | |
| | | | | | | | Family Planning | |
| | | | | | | | Asthma | |
| | | | | | | | Employment Issues | |
| | | | | | | | Measuring Quality | |
| | | | | | | | Macmillan Nurse Role | |
| | | | | | | | Hodge: Health Career Model | |
| | | | | | | | Leininger's: Sunrise Model | |
| | | | | | | | Paediatric Service | |
| | | | | | | | Working with Families | |
| | | | | | | | Children with Learning Disabilities | |
| | | | | | | | Nutrition of Children | |
| | | | | | | | Nutrition of the Elderly | |
| | | | | | | | Nutrition for Clients with Special Needs | |
| | | | | | | | Teenage Pregnancy and Motherhood | |
| | | | | | | | Child Carers | |
| | | | | | | | Palliative Care of School Child | |
| | | | | | | | Sexuality and Children with Learning Disabilities | |
| | | | | | | | Eating Disorders | |

■ Indicates shared sessions

* These lectures are followed by discussion within the specialist options

学習内容は、表1に示すように、Core Units と Specialist Option Units に分かれている。図1に40週の構成を示すが、学内での学習がおよそ15週、実習が19週で、実習に多くの時間をとっている。前半は学内での学習、後半が実習となる。実習は第1部と第2部に分かれ、第1部は第5週から始まる。第8週～11週は学内での学習になるが、週に1日は実習第1部が含まれている。17週から22週の実習第1部は週に1日は学内での学習時間となっている。第2部では、学生は自立し、現場のスタッフと同様のレベルで実践活動を行う。1週間のモデルを表2に示す。Core Units は全学生が同じ科目を学習するが、Specialists Option Units からはそれぞれの専門に基づいて授業を選択する。表3に、各専門別にどの授業科目を選択できるかを示した。

CN が専門細分化されたことは、各分野でより専門性をもった看護活動ができる一方、サービスを受ける対象にとっては、多種類の看護師が関わるため、混乱を招いているという問題もあった。そのために、いかにCN同士で連携をとるかが課題であり、特別演習ももうけられていた。

USCF における地域看護学について

1. 地域で活動する看護職

米国においては、Advanced Practice Nurse (APN) と呼ばれる大学院教育を受けた Nurse Practitioner (NP) や Clinical Nurse Specialist (CNS) が地域看護の分野においても活躍している。UCSF の School of Nursing は、大学院大学で、多種類の NP や CNS を養成している。地域看護の実践現場では、Adult Nurse Practitioner (ANP) がホームレスを対象者としたクリニックで健診や保健指導を行ったり、Family Nurse Practitioner (FNP) や Pediatric Nurse Practitioner (PNP) が地域のヘルスセンターで子どもの健診等を行ったりしている。また、APN ではないが、我が国の保健所や保健センターと同様、行政機関に所属する Public Health Nurse (PHN) が地域看護分野では重要な役割を担っている。PHN の資格は、看護大学で所定の単位を取得していれば認定される。

このような APN や PHN の活動は、大学院の授業の一つである Community Health Nursing 講義と実習の

一部に参加することで知ることができた。そこで、この授業内容から、地域看護教育と実践の場を紹介する。この授業は、MEPN (The Masters Entry Program in Nursing) コースのためのものである。MEPN とは、看護以外の学位を持っている者が、3年の修士課程で学ぶことによって、NP や CNS を取得するコースである。1年目に看護の基礎的勉強をした後、NCLEX (National Council of Nursing Licensing Examination) を受験し、看護師 (RN) の資格を得る。そして、大学院修了後は APN となる。

2. 地域看護学 (Community Health Nursing) の講義と実習

Fall Quarter (10週間) に開講される。講義は、週3時間 (3単位)、実習が5.5単位で、実習は講義以外の日に2日間組まれているが、実習先が細かく分かれており、各実習先で曜日や実習内容が若干異なっている。シラバスより講義内容を抜粋し、表4に示した。シラバスには、講義の目的、到達目標、課題、評価方法などが具体的に書かれている。実習内容は実習先の特徴に併せて異なってくるが、共通の課題として、Community Assessment と Community Project がある。Community Assessment は地区診断で、実習先のある地域について情報を集め、診断を行う。Community Project は、実習先により多少異なるが、テーマを決めて健康教育を行うことがほと

表4. Community Health Nursing の講義内容

| 回数 | 講義内容 |
|----|--|
| 1 | 授業全体の概観：地域看護学の紹介 地域看護学の歴史 Healthy People 2010 (米国における健康政策) 世界の健康問題と環境問題 |
| 2 | 家族看護：個人と家族への介入 生涯にわたるヘルスプロモーション |
| 3 | 地域看護理論と介入 疫学 & 健康教育 |
| 4 | ヘルス・ケア・システム & 経済学 地域資源 & アドボカシーの役割 |
| 5 | 公衆衛生問題としての暴力：家庭内暴力 & 子供の虐待 & ネグレクト |
| 6 | 対象別健康問題：男性、高齢者、慢性疾患の在宅療養、労働者 |
| 7 | 対象別健康問題：女性、子ども、思春期 |
| 8 | 伝染病の予防と管理 災害時の管理 |
| 9 | 弱い立場の人々：ホームレス、慢性的精神疾患患者、薬物乱用者、移民 |

んどで、講義の最終日に各グループで実践したことの報告会があった。また、講義と実習が同時進行であることから、講義のトピックにあわせて、学生が実習先で学んだ事例を紹介し、全員で討論する機会を持っていた。

約30名が受講していた。10カ所の実習先があり、2名から5名ずつに分かれて実習していた。以下に、筆者が実際に見学することができた実習先を紹介する。

3. 実習先の紹介

1) 行政機関での看護活動展開

Chinatown Public Health Center

チャイナタウンにある保健所である。医師、保健師、ソーシャルワーカー等があり、学生は母子の家庭訪問を中心に実習を行っていた。住民には中国人が多いので、健康教育等で用いるパンフレット等の媒体には英語版と中国語版が用意されている。

Berkeley Public Health Department

サンフランシスコ市郊外のバークレー市の公衆衛生部門である。ここでは保健師は担当地区を持ち、子どもから高齢者まで全数を対象に活動している。

これらの機関は、制度の違いによる実践内容の違いがあるものの、我が国の保健所や市町村の保健衛生部門での保健師活動とおおよそ同様である。

2) Bernal Heights Neighborhood Center Senior Services

保健所とは異なり、地域の中にあるコミュニティーセンターで、高齢者デイサービスや学校帰りの子どもたちがグループ活動等をしている。ソーシャルワーカーが常駐しており、保健師は常駐ではないが、市の保健師が週に1日程度立ち寄り、学生はここを拠点に家庭訪問や、経費老人ホームへ出向き、インフルエンザの予防接種と健康教育を実施した。この地域には、ヒスパニックの人々が多く居住しているので、健康教育は英語とスペイン語で行われていた。また、地域のお祭りであるストリートフェアで、学生が血圧測定コーナーを受け持ち、血圧測定および指導を実施した。

3) Valencia Health Services

UCSF と San Francisco State University (SFSU) が共同で立ち上げたヘルスセンターで、主に母子の健康問題に対するサービスを提供しながら、学生が実習をするところである。UCSF と SFSU の教員が FNP, PNP と

してサービスを提供しながら、実習指導も行う。

4) ホームレスの人々へのケア

サンフランシスコには多くのホームレス者が生活している。健康問題としては、メンタルヘルス、ドラッグ、糖尿病等があり、いろいろな形でヘルスサービスを提供しており、それぞれの看護職の活動に沿って、学生が実習をしていた。

Multi-Service Center South Program for the Homeless

公的なホームレスのシェルターで、週1回 ANP がクリニックを持つ。そこでは、フィジカルアセスメントと簡単な処置、さらに専門の治療が必要な場合には医療機関等の紹介を行っていた。

Next Door Homeless Program

公的なホームレスのシェルターである。ソーシャルワーカーが常駐している。市の保健師が定期的にそこを巡り、身体面の状況を中心に話を聞きながら、生活指導を行っている。

Glide Memorial Church Health Services Health Clinic

UCSF の教員をはじめとする医療・福祉関係者が集まり、行政や企業から補助金・寄付金を集めて設立したクリニックである。教会と隣接している。UCSF の教員も ANP として、クリニックを持つ。対象者一人に30～45分かかけ丁寧にアセスメント・指導する。HIV、肝炎等の検査、女性の場合は乳がん検査などを実施し、さらに感染症の予防についての教育や、糖尿病の自己管理について指導、禁煙教育等を実施していた。

5) SF General Hospital Case Management Program

病院の中でのケースマネジメントプログラムである。看護師、ソーシャルワーカー、医師が集まり、退院するケースや入退院を繰り返しているケースについて話し合いがもたれていた。ここは公的な病院で、医療保険を持たない患者が多いため、ホームレス、ドラッグの問題のケースが目立っていた。

4. 実習指導者

これらの実習先での指導は、ボランティア臨床教員 (Volunteer Faculty) と呼ばれる指導者と講義責任者である教授で行われていた。現場の看護職が臨床教員として指導している場合もあるし、実習のときだけ指導に来る臨床教員もいた。

考察

1. 我が国における地域看護分野における看護の発展の可能性

英国・米国において、看護職が地域の中でそれぞれの専門性を発揮している現状を知ることができた。例えば、英国のCCNの活動により、子どもの入院期間を短くするなど、病院の中で行われていた専門的な看護を地域でも提供できていた。また、CMHNは精神障害者だけでなく、思春期の子どもたちや、刑務所にいる人への対応など、幅広い範囲での心の問題に対応していた。これらは、我が国においても、訪問看護師や保健師の活動の幅を広げることにより、今後発展させていくことができると考える。また、英国のGPNや米国のANPはフィジカルアセスメントから治療・処置まで行っていた。我が国においては、法制度の違いで治療・処置を看護師の判断で行うことができないが、過疎地域など医療専門職が少ないところでは、緊急対応が必要かどうかを判断するため、基本的知識として看護職にも求められる。現在の我が国における教育内容を見直していく必要があると考える。

2. 教育方法の検討

UCSFでの地域看護学の講義と実習は同時進行ですすみ、講義で学んだことをすぐに実践で試行することができ、また、実践で学んだことをすぐに講義で再確認したり、クラスのディスカッションで議論を深めることができていた。本校では、講義と実習の間が離れてしまうが、3年次の実習における「実践と理論の統合」のなかで、1年次の看護学概論および2年次まで続く看護方法の講義と実習を効果的に連動できるように検討する必要がある。

3. 「連携」に関する教育内容の検討

英国においては、CNが専門細分化されたことにより、CN同士の連携をいかに取るかが課題であった。また、USCFでは、病院でのケースマネジメントプログラムが始まり、看護職と医師、福祉職で連携を取ることが課題となっていた。我が国においても専門職間の連携のあり方については長年の課題であり、現在でもどのように連携をとるか、さらにその教育のあり方についても試行錯誤しているところである。国内外の連携に関する実践や、教育の現状を整理し、検討していく必要がある。

4. 教員の臨床活動と臨床指導者の育成

米国では、大学教員が週に何日かは臨床活動をし、そ

してそこに実習に来ている学生に対し、看護実践者として実習指導をしていた。このことは、教員の臨床指導能力を向上するためにも有効であると考えられる。また、英国においても、米国においても、実習先の看護職が実習現場での教育責任をもち、学生指導を行っていた。学生自体がすでにRNの資格がある者や、大学院生であるため、自立して主体的に学ぶことができるためでもあるが、現場看護職自身にも教育能力があると言える。実際、UCSFでは現場の看護職を臨床教員として任命し、教育にあたるシステムができていた。大学教員の教育能力開発は当然であるが、現場臨床指導者の教育能力開発のためにも、今後、教員と実習指導者が共に実習指導のあり方を検討していくことが必要であると考えられる。

まとめ

英国ならびに米国における地域看護教育の現状を紹介した。国により地域看護領域での活動内容が異なるため、教育内容も異なるが、我が国の地域看護を発展させていくための、そして教育内容を見直すための方向性を見いだすことができた。また、他職種との連携や協働のあり方は、我が国でも課題となっていることであり、今後世界共通の課題として、共に検討していけると思われた。

今後の検討課題としてあげた点について、再度、得てきた情報を整理し、検討していきたい。

謝辞

本学教職員の皆様のご理解とご協力により、長期にわたる海外研修に行かせて頂きましたことを深く感謝し、お礼申し上げます。たくさんの暖かい励ましをありがとうございました。

文献・Website

- 1) The National Health Service <http://www.nhs.uk/>
- 2) NHS Careers <http://www.nhs.uk/careers/>
- 3) Bachelor of Arts Degree in Community Health Study Course Document, Reading University, 1996.
- 4) Paul Cain, Val Hyde and Elizabeth Howkins : Community Nursing Dimensions and Dilemmas, Arnold, 1995.

(受稿日 平成16年2月10日)